

# 山口と広島「仁保地区」交流へ

## 戦国末期に同じ領主統治 郷土史会 28日 山口へ

山口市の中山間にある仁保地区と広島市南区の仁保地区が、同じ地名の「仁保」つながりで交流する機会になった。28日に南区の仁保郷土史会「会員」が山口市を訪れて仁保自治会（川尻雅男会長）の案内で地区



内を視察する。歴史的に双方の領主が同じだったことなどが分かっており、さらに交流を深める方針だ。仁保自治会によると、2月に南区仁保地区の仁保公民館（頼政弘満館長）から、「郷土史会の視察を受け入れてもらえないか」と連絡があった。同自治会はかつて、広島にも同じ「仁保小・中学校」が存在することを知って学校同士の交流を構想したことがあったため、今回の申し入れを受け入れることにした。

仁保郷土史会のホームページや頼政館長によると、公民館は南区の中学校区ごとに設置され7館ある。仁保公民館は仁保中学校区のコミュニティ拠点で仁保新町に在り。南区は大田川

のデルタ地帯に開けた地で、仁保地区は埋め立てられる1600年代半ばまで広島湾に浮かぶ島（仁保島）だった。現在は大田川支流の対岸にマツタ本社工場が立地する。

山口市の仁保地区は鎌倉時代、平子重経が地頭職として赴き、仁保、三浦氏と改姓しながら統治してきた歴史がある。一方、仁保郷土史会の研究で広島仁保島は戦国末期、山口の仁保領主だった三浦氏が毛利輝元から知行地として与えられ、仁保島城の城主として治めた時期があった。この

仁保郷土史会は約30年前に結成。地域の歴史の調査研究やその成果を生かしたまち歩きなどの事業を続けている。今回は山口市仁保地区との歴史的な縁を契機に、交流を通じて両地区の魅力づくりにつなげたいと考え、訪問を計画した。

仁保自治会は、山口の農部の都市という対照的な地区同士の交流はまたとない機会と捉え、郷土史会が十分な成果が挙げられるよう綿密なスケジュールを検討している。事務局は「広島は高速道路を使えば遠くない。同じ仁保小・中学校もあるいろいろな交流が考えられる。当面は人的交流から話し合ってみよう」と抱負を話す。

（畑谷久）